



**なかしま・しげる** ●1956年新潟県生まれ。1979年上智大学理工学部化学科卒業。1981年同大学大学院理工学研究科化学専攻博士前期課程修了。聖カタリナ女子短期大学助手、講師、聖カタリナ女子大学講師、助教授、教授を経て、1999年文教大学女子短期大学部教授。2010年文教大学健康栄養学部教授。同大学副学長を経て、2021年より現職。理学博士。



# 荒波に挑むトップ 私の改革論

No.44

文教大学・学長

中島 滋

取材・文／仲谷宏 撮影／荒川潤

ました。この変化をチャンスとするため、オンラインを活用して各キャンパスをつなぎ、一つの総合大学として一体的に運営する環境整備を新キャンパスの開設にあわせて進めています。これからは、全学の力を結集し、総合力で「育ての、文教。」のブランド向上を図っていきます。

離れたキャンパス間の連携は容易ではありませんが、学内の連携で培った技術やノウハウは、本学の新たな強みとして学外の連携などにも応用できると期待しています。

## 3キャンパスの連携を深め 総合力で発展する大学へ

各キャンパスの個性を生かしつつ、教育・研究での連携強化を推進

### キャンパス新設を機に 運営のあり方を見直す

本学は2021年4月に東京あだちキャンパス（東京都足立区）を開設し、既存の越谷（埼玉県越谷市）、湘南（神奈川県茅ヶ崎市）と合わせて、3キャンパス体制となりました。各キャンパスは、学

部構成や地域特性が異なりますが、連携を深めることで新たな知と大きな力が創出されるはずとす。今回の変更を機に、3キャンパス体制を生かした総合力の向上を図る考えです。

これまでは、越谷と湘南の間にかなり距離があり、キャンパスを超えた学部間連携や学生の交流は

物理的に難しく、それぞれ独立した形で運営を行ってきました。正直、同じ大学という意識は希薄だったかもしれません。しかし、そこに新たなキャンパスが加わったことで、2点間の線で捉えていたキャンパス間の関係が、3点の連携のあり方によってさまざまな可能性を生み出せるものに変化し

### 付加価値の高い教育を DX化の推進で実現

一つの総合大学としての魅力を高めるために私が最も重視しているのは、学生がどのキャンパスにいても本学が提供する科目を広く受講できるようにすることです。それには、教育のDX化が欠かせません。本学は以前から、情報学部を中心にオンライン授業などの環境整備に取り組んできました。ところが、コロナ禍で考える間もなくその実践に突入する中で、教員の技量に差のあることが課題として浮き彫りになりました。まずは、高い技量を持った教員のノウ

ハウを共有するFD・SDを実施して、全体のスキルアップを図りたいと考えています。

異なるキャンパスにいる学生が同じ授業を受けるには、授業時間の統一も必要です。通学事情を考慮して、これまではキャンパスごとに授業開始時刻を変えていましたが、それを本年度からは共通にしています。

大学としての一体感を醸成するため、自校について理解を深める自校教育の導入を進めます。現在、建学の精神である「人間愛」を基にしたカリキュラムの策定を行っており、2022年度より全学共通教育プログラムの一つとして始める予定です。全学生を対象とするためオンラインでの実施を考えたいですが、同じキャンパス内の他学部生とのディスカッションなどでは対面方式も取り入れたいと思っています。

学部間の連携もDX化で強化します。例えば、湘南にいる健康栄養学部の学生が、越谷の人間科学部で提供される対人援助技術の授業をオンラインで受講すれば、人に対する理解が深まります。また、本学の強みである教員養成では、学校種を問わず今後必要となる情報教育のスキルを、オンライン授業で育成することが考えられるで

### 地域の状況に応じた 地域貢献を展開

し。教育改革が進む中で重要度が増す幼小中高大の接続教育についても、幼稚園から高校まで教員免許が取得できる本学の教育体制を生かせば、実践的な教育プログラムの開発が可能となるはずとす。こうした総合力の発揮により、教育の付加価値はさらに高めていけるのです。

全学的な統一を図るだけでなく、各キャンパスの個性を生かした活動も行っています。

例えば、新たに開設した東京あだちキャンパスは、「地域に溶け込む」が設計のコンセプト。塀をつくらず、地域の住民は構内に自由に出入りできます。学食の利用も可能です。今後は、図書館も地域に開放する予定です。足立区とは包括協定を結んでおり、本学も「新たな住民」の一人として、共に区民とのオープンな交流をベールとしたまちづくりに取り組んでいます。

一方、湘南キャンパスのある茅ヶ崎市では、本学が市内にある唯一の大学です。これまで以上にもっと存在感を高める必要があります。今までは教員による個人単

### 高い目標を掲げて 大学の発展をめざす

本学は現在、第4次中期経営計画「BUNKYO ACTION PLAN 2025」の策定を進めています。各プランの数値目標を明記し、達成率を客観的に評価できる計画とする考えで、目標の水準は、

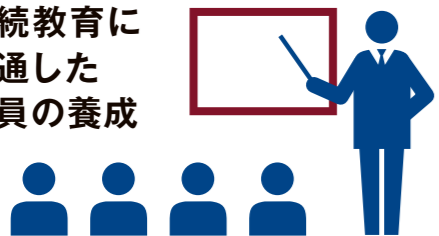
達成が見込めるレベルではなく、高いレベルで設定したいと思っています。というのも、中期計画は大学の

発展のために立てるもので、高い目標を掲げることが、高い志を持つことにつながるからです。高い志を持ち続けて試行錯誤すれば、目標までの道筋は必ず見えてきます。

大学運営において学長は優秀な「リスナー」であり、「ファシリテーター」であり、「クリエーター」であるべきだと私は考えています。学生や教職員の声に耳を傾け、寄せられたさまざまな意見を調整し、最後は最高責任者として最善解を判断する。こうしたプロセスをきちんと踏むことで、学内の結束を強化し、全学の力を集めて改革を進めることに今後も取り組んでいきます。

### 注目の経営指標

#### 接続教育に 精通した 教員の養成



小学校の教員採用者数が私立大で14年連続全国第1位など、教員養成に強い文教大学。幼稚園から高校まで教員免許が取得できる教育体制を生かして、今後重要度が増す学校種間の接続教育に関する学修を強化し、教育改革をリードする人材の育成に取り組む考えだ。